

社団法人大船渡青年会議所設立趣意書

大船渡市は、臨海工業都市として使命を担い、昭和27年市制施行以来着々と都市的発展を見るに至りました。

然るに、今日に至るまで当市に明日の時代の担い手となるべき若年経営者の相互の親睦と研修の場がグループ的にいくらかあったにすぎないと言うことは、甚だ遺憾であり、複雑、多様化、情報化時代の社会における青年経営者の社会的責任を自覚する組織の場がないことは、地域社会発展のためにも大きな損失と思われます。

申しますに、当地方は、豊富な産業資源に恵まれながらも、交通輸送路が未整備で、その開発がまだ取り残されているところもあり、他都市との交流も、刺激も少なく、文化、経済、社会のあらゆる面で、中央及び他都市に遅れている感が有ります。

特にネコの目の様に変る、激動する社会情勢の中で、当市においても企業の近代化、経営の合理化が強いられるなど、中小企業をとりまく環境はきびしさを加え、その対処が急務とされておる現状であります。

そのような時期に、次の新しい世代を担う我々青年が井の中のかわずになつては、自分よがりでは、我々個人のそれはもとより地域的にも、国家的にも大なるマイナスであると確信するものであります。そういう観点から昭和44年7月、大船渡青年会議所が内外の期待の基に、一関青年会議所諸兄の指導により創設をし、9年目を迎えようとしている現状です。

しかるに、激動と躍進する大県岩手の構想のもと、県南の雄、岩手の港の玄関口として今後増々進展し、興隆を期し、急激に変化しつつある社会の状況を的確にとらえ、多様化する地域社会に対応できる社会集団として、大船渡青年会議所会員は、えりを正し、我々自身変革をなしとげる。ここに公益法人となり権利と義務の所在を明確とし、社団法人として一段と会員の充実を計り、その使命を自覚し、決意新たに力強く活動を展開する決意であります。

会議所会員が互いに恥をかき合う事によって、自己研修の場となると共に、将来のよき指導者として、山海景勝の地、誇りある郷土を愛し明るい豊かな街づくりの為、正常な発展に貢献することを誓い、従来の大船渡青年会議所を発展的に解消して、ここに社団法人大船渡青年会議所を設立したいと考えます。

社団法人大船渡青年会議所
設立者代表 及川 克郎

以下発起人7名